



Maṅgalasuttam

吉祥經



仏教の教説は修道者がそれぞれ自己をよりどころとして、その知見をみがき、身語の行為を清浄となし、現在の禍福はもちろんのこと、来世のための善根功德も問題としないものであったが ……………。

佐々木教悟『上座部仏教』p.188

悪霊払いのために、呪術や供養を行うことが邪悪なものとして否定され、禁止されていた初期仏教から時代を隔て、仏教がインドから他の地域、他の民族に伝承されて行く間に、自己をよりどころにしてひたすら聖性を求めるという修行者のあり方にも変容がなされ、その地の文化や風習との関係を深める役割をも担うようになった。

家庭生活を営む市井の者にとって、無病息災を願うことは言わばあたりまえの事であって、厄災を遠ざける何らかの力を求められた時、パリッタ(paritta 護呪経)によってそれに添えてきたのがテーラワダ仏教で、スリランカではピリット、ミャンマーではパレイ、タイではパリッタと呼ばれている。

時には、村を悪霊から護るといった意図のもと、村の外周にサーイシンといわれる聖糸を張り巡らし、その先端を比丘衆が手にしてパリッタを唱えたり、湯水期に乾ききった田畑に莫蔞を敷き、「雨乞い」の呪術にパリッタが用いられることがあり、このような、修行者と在家信者の、宗教性や目的の乖離と融合の全体構造にテーラワダ仏教の特質を見ることができる。



パリッタ儀礼は在家者(施主)の要請に応じて唱える、
という形式をとるため、施主はまず戒を受け、その後、
比丘サンガに対してパリッタ誦唱を要請する。
以下の語句はタイ国で用いられるパリッタ要請文。

Vipatti paṭibāhāya sabbhasampattisiddhiyā,
sabbadukkha vināsāya parittaṃ brūtha maṅgalaṃ.

Vipatti paṭibāhāya sabbhasampattisiddhiyā,
sabbabhaya vināsāya parittaṃ brūtha maṅgalaṃ.

Vipatti paṭibāhāya sabbhasampattisiddhiyā,
sabbaroga vināsāya parittaṃ brūtha maṅgalaṃ.

(比丘衆の方々、すべての厄災を除き、すべてに到達がなされる
よう、幸福の兆しとなるパリッタを唱えて下さい。
すべての苦しみ、すべての恐れ、すべての病が取り除かれます
ように。)

Maṅgalasuttaṃ

Bahū devā manussā ca, maṅgalāni acintayum;

Ākaṅkhamānā sotthānaṃ, brūhi maṅgalamuttamaṃ.

多くの神々や人々は幸福を望みつつ吉祥を考えて来ました。

最上の吉祥を説き給え。

Asevanā ca bālānaṃ, paṇḍitānañca sevanā;
Pūjā ca pūjanīyānaṃ , etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Patirūpadesavāso ca, pubbe ca katapuññatā;
Attasammāpañidhi ca, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Bāhusaccañca sippañca, vinayo ca susikkhito;
Subhāsītā ca yā vācā, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Mātāpitu upaṭṭhānaṃ, puttadārassa saṅgaho;
Anākulā ca kammanā, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Dānañca dhammacariyā ca, ñātakānañca saṅgaho;
Anavajjāni kammāni, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

賢者に親しみ、愚者に親しまず、
尊敬すべきものを尊敬する、
これは最上の吉祥である。

適当な場所に住む、前世に積んだ功德、
身心を(悪より)よく引き留めておく、
これは最上の吉祥である。

^{ひろ}博い見聞、(生活のための)技術、
よく身についた^{しつけ}躰、よく語った言葉、
これは最上の吉祥である。

父母を養い、妻子を守る、
秩序ある仕事、
これは最上の吉祥である。

^{ほどこし}施与、^{かな}法に叶う行い、親族の愛護、
非難を受けない行為、
これは最上の吉祥である。

Āratī viratī pāpā, majjapānā ca saṃyamo;
Appamādo ca dhammesu, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Gāravo ca nivāto ca, santuṭṭhi ca kataññutā;
Kālena dhammassavanaṃ, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Khantī ca sovacassatā, samaṇānañca dassanaṃ;
Kālena dhammasākacchā, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Tapo ca brahmacariyañca, ariyasaccāna dassanaṃ;
Nibbānasacchikiriyā ca, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

(身・口・意の)悪より離れ去り、飲酒より自制し、
善法において放逸がない、
これは最上の吉祥である。

尊敬、謙遜、満足、受けた恩を知る、
適時に教法を聞く、
これは最上の吉祥である。

忍耐、忠告をすなおに受け入れる、
僧(出家)に会う、適時に教法について話し合う、
これは最上の吉祥である。

戒律の修行、止観の修行、
聖なる真理を見、涅槃を悟る、
これは最上の吉祥である。

Phuṭṭhassa lokadhammehi, cittaṃ yassa na kampati;
Asokaṃ virajaṃ khemaṃ, etaṃ maṅgalamuttamaṃ.

Etādisāni katvāna, sabbatthamaparājitā;
Sabbattha sotthiṃ gacchanti, taṃ tesāṃ
maṅgalamuttama nti.

世間の法に遭遇しても心が動揺せず、憂いなく、
安らかである、
これは最上の吉祥である。

このように行えば、いかなることにも敗れることがなく、
あらゆるところで幸福が得られる。
これ（三十八）は神々や人間にとって最上の吉祥
である。

私たちはどのように生きていいのか、ということを知ってほしいものが仏教であるが、
では仏教は私たちにとって〈幸福〉とはどんなものだと教えているのであろうか。
この短い一節は、〈人生の幸福とは何か〉をまとめて述べている。いわば釈尊の幸福論である。

中村 元『ブツダのことば』 p.306

吉祥経／マンガラ・スッタ／ウ・ウェーヅラ長老訳 『基本聖典』 p.14-p.16

中山書房仏書林(転載許可取得済)